

今日も「一丁あがり」

第59話

確かな仕事のために一次情報を！ の巻



高垣達郎
(たかがき・たつろう)
1984年アメリカ生まれ、東京都大田区の町工場街で育つ。2011年に㈱ロボストスを創業し、農林水産業機械のワンオフ対応を軸に、独自のサービスを構築。A-1グランプリ2011グランプリを受賞。群馬県を拠点に、機械メーカー・ディーラー・農協・農業生産法人など、全国的に取引を拡大している。(㈱ロボストス・代表取締役社長)

皆さん、こんにちは！ 日本が太平洋戦争に突き進んだ時代、曾祖父は衆議院議員を務めておりましたロボストス高垣でございます。さて、9月に行なわれた自由民主党総裁選、メディアは河野太郎候補が過半数を取れるか否かを前提に報道していましたが、結果はまるで違いました。世間の印象と国会議員内の評価に差があったわけですが、僕がYouTubeで各候補の論戦を見た限り、河野候補が優勢とはまったく思えません。一方で、選挙コンサルタントとかいう肩書きの人が、早々に岸田文雄候補が本命とTwitterで発信していました。予想の当たり外れはさておき、スマホをタップすればあらゆる情報が簡単に手に入る時代だからこそ、自分の目・耳・手で一次情報を掴むことの大切さを改めて感じさせられた出来事でした。日々ネットニュース



写真1：中セキ半自動野菜移植機PVH2のホッパー



写真2：ホッパーをサンダーで大胆に切断してバラバラに。今回のカスタマイズでは、純正品の根本と先端を活用した



写真3：カスタマイズしたホッパー。3パターン試作して、Ver.3(左写真)で納得いく結果が得られた。もう少し円錐角度を緩やかにしたいところ

を流し読みしているの、いい加減な情報に惑わされないように本当に気を付けないといけません(汗)。ということ！ 今月も現場主義で行っていきましょう！

ひと工夫で、もっと便利に

先月は野菜移植機の足回りの話題を取り上げましたが、今月は同じ野菜移植機からホッパーについて話してみよう。このカスタマイズは高垣のなかで最近のトレンドです。

大手メーカーはさまざまな作物に対応できるように、ホッパーを汎用的に作らざるを得ません。で

も、現場では生産者ごとにセル苗のサイズなど移植条件は違いますよね。マルチ植えをする場合は、破れた穴から雑草が生え、有機農家さんは穴ごとにくるりと指で掻いて雑草を取っていたりします。また、セル苗でなく苗のみを移植する場合は、穴が大きいと倒れやすくなり、植え直す手間が発生してしまいます。そんな現場の実情

を知って、移植時に最適な大きさの穴を空けることの重要性に気づきました。

とある農業生産法人からの依頼を受けて、僕がサクッとカスタマイズしたホッパーを農家さんたちに見せたところ、続々と不満の声が出てきて驚かされました。手作業に比べて野菜移植機を使えば劇的に楽になるので、穴の大きさは問題視されてこなかったかもしれませんが。でも、ホッパーの形を選択できれば、農作業をより効率化できます。小さなひと工夫で大きな違いが得られることも軽視してはいけませんね。ということ！ 今月も一丁あがり〜♪♪♪